

67

『福岡医科大学醫院耳鼻咽喉科 手術候補簿』
明治40（1907）年—明治44（1911）年

丸山マサ美, 小宗 静男, 吉田 眞一

九州大学医学研究院

九州大学耳鼻咽喉科学教室初代教授久保猪之吉は、明治33年、東京帝国大学医科大学を卒業後、明治34年に東京帝国大学耳鼻咽喉科教室の助手となり、明治36年、ドイツライプツグに留学した。

グスタフ・キリアン教授のもとで助手を務める中、12月14日、福岡医科大学助教授に就任する。明治40年、帰国。京都帝国大学福岡医科大学耳鼻咽喉科の初代教授に命ぜられ、2月19日、耳鼻咽喉科学教室を開設した。

本稿は、昭和2（1927）年、九州大学耳鼻咽喉科学開講20周年を記念し、門下一同から久保猪之吉教授に謹呈された久保記念館（Kubo-Museum）に保管されていた『手術候補簿』における患者の動向について報告するものであり、医史学としての史的研究としての考察を深める事を目的とした。

『福岡医科大学醫院 耳鼻咽喉科手術候補簿』は、現在、九州大学医学部耳鼻咽喉科学教室において保管されている最古の『診療録（clinical record）』である。病名は、全て筆記体（ドイツ語）で標記されており、患者第1号は、明治40（1907）年2月19日、頸部流注膿瘍（28歳）。7月5日、久保猪之吉教授は、上顎洞を手術的に開き、孤立性後鼻孔鼻茸の原発部を確定し、上顎洞鼻孔茸の新呼称を附し、学会発表し、新技術の普及に努めた（「九州大学医学部耳鼻咽喉科学教室開講百周年記念誌、20頁、2009年」）。

革製の背表紙には、『福岡医科大学醫院 耳鼻咽喉科手術候補簿』と書かれ、縦21cm×横17.5cm×幅3.5cmの大きさである。明治40（1907）年より明治44（1911）年の記録における1,763名の疾病内訳は、鼻疾患1,063名（60.3%）、耳疾患384名（21.8%）、悪性疾患・腫瘍63名（3.6%）、異物36名（2.0%）、先天性疾患27名（1.5%）、その他190名（10.8%）であった。また、この手術候補簿は、“月日・病名・病室・年齢・（患者）番号”の記録となるが、その中でも、以下、患者15名『（1. 1907年3月6日、患者187号「梅毒性咽頭炎（32歳）」、2. 1907年3月19日、患者402号「口蓋裂（20歳）」、3. 1907年7月25日、患者605号「咽頭瘢痕形成（22歳）」、4. 1908年2月7日、患者165号「耳後部開放創（瘻孔）22歳」、5. 1908年5月25日、患者883号「口蓋黒色肉腫（45歳）」、6. 1908年8月15日、患者2034号「食道異物（26歳）」、7. 1909年8月21日、患者2588号「鼻中隔湾曲症 肥厚 メニエール氏病（25歳）」、8. 1909年12月22日、患者3565号「メニエール氏病（18歳）」、9. 1910年2月5日、患者214号「咽頭喉頭結核（26歳）」、10. 1910年3月2日、患者557号「顔面丹毒 慢性中耳炎（24歳）」、11. 1910年3月19日、患者769号「急性中耳炎 急性乳突洞炎 顔面麻痺（3歳）」、12. 1910年7月23日、患者2339号「パラフィン腫（31歳）」、13. 1910年9月6日、患者2890号「慢性中耳炎 耳ポリープ 側頭骨癌腫（15歳）」、14. 1910年10月5日、患者3161号「聾（21歳）」、15. 1911年3月20日、患者849号「先天性耳瘻孔 膿瘍形成（8歳）」』については、本データの公開を通して、耳鼻咽喉科疾患・治療の動向を考究する事に意義があると考えらる。

付記 本研究は、平成23・24年度科学研究費補助金（課題番号）23650563（研究題目）九州大学医学部における史料研究——新しい「医の倫理」教育方法論の構築——の一環である。